

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅 哲男
接合科学研究所 客員教授

本年度 4 ヶ国目の CIS(カップリングインターンシップ)を、9月7日~20日の期間にベトナム(ハノイ)で開催しました。大阪大学外国語学部2名、工学研究科2名、ハノイ工科大学情報工学部2名、工学部2名の計8名の学生が参加しました。現地では2日間の事前研修を行い、企業の経営理念やコミュニケーション技法の講義(講師:言語文化研究科の横江特任教授と清水准教授)などを受講し、11日から5日間の企業実習に臨みました。実習先のフジキン・バクニン(精密機器会社、フジキンの子会社)では、会社説明(方針、組織、事業内容)を受けると共に、実習(バルブの組立と溶接)と関連の会社(フジキン・ベトナム、ヤマザキ・テクニカル)の工場見学を行いました。また、フジキン・バクニンの

川端社長による「ベトナムにおける外資系企業の役割」についての講義を受け、CISの課題である「ベトナムの将来について何ができるか」について質疑応答をしました。大きなテーマですので、取りまとめは簡単ではなかったのですが、学生は全力で取り組みました。最終日の19日には、フジキン・バクニンで、学生はCISの課題とその対策についてプレゼンテーションを行いました。最終報告会には、川端社長、ハノイ工科大学の Hanh 接合科学部門長、接合研の菅客員教授ら計16名の参加があり、企業からは丁寧なコメントもいただきました。学生は、今回のCISを通して「ものづくり現場」の就業体験をすると共に、コミュニケーション力や問題解決力を学んでおり、価値ある活動でした。

